

【解説】

答えは、「時間と空間を超越する想像力」となります。

この問いに正解すること自体は、比較的簡単だったかもしれませんが。しかし、問われている箇所と抜き出すべき部分が離れているという点では、やや難しい構造であると言えるでしょう。

また、似たような意味を持つ表現が何度か繰り返されているため、「ある部分の字数を数えてみる↓指定字数に合わず他を当てる↓また数える↓また合わない」ということを繰り返すうちに、時間を浪費してしまう可能性があります。抜き出し問題では、よくあるパターンです。

しかし、「ひとことと言うと？」を口癖にさえしていれば、最大限、時間を節約できるはずで。

問われている——部の直前に、「すべては、『今・ここ』を離れてイメージを自由にふくらませる力の存在ゆえである」とあります。通常、まずここに注目するでしょう。特に、「イメージを自由にふくらませる力」の部分が、答えに入りそうです。しかし、字オナーバーです。そこで問うのです。「ひとことと言うと？」と。その答えは、「想像力」。

【意識して名詞化する】

名詞は、文の主語になることができます。「昨日は最高気温が一八度だったが、今日は二五度だ」という文を、「違い」あるいは「差」などと名詞化することで、次の文へとスムーズに展開できるようになります。

たとえば、「昨日は最高気温が一八度だったが、今日は二五度だ。ずいぶんと違いがある。」「昨日は最高気温が一八度だったが、今日は二五度だ。差が大きい」。

このように、私たちは実は当たり前のように名詞化を行っているのです。

これを意識的に「武器」として使えるようにしようというのが、この鉄則です。

【和語と漢語】

「情に薄い」と言えば比喩的な印象がありますが、「薄情」と言えば抽象的な印象があります。

和語（主に訓読み言葉）になると比喩的・具体的になり、漢語（主に音読み言葉）になると抽象的になる傾向があります。

ひとことと言いかえる際、和語で表現された長めの部分を短い漢語に言いかえるというケースもよくありますから、覚えておくとういでしょう。

もちろん、本文中で「薄情」と書かれていたものが、選択肢では「情に薄い」などと言いかえられていることもあります。

和語と漢語、いずれからの言いかえもできるのがベストです。

想像力という言葉を探すと、冒頭の段落に出ています。そして、そこに書かれている「時間と空間」は、「今・ここ」と同じ意味です。字数を数えると、ぴったり。これで、めでたく答えにたどり着いたわけです。

ひとことと言いかえるパターンには、いくつかあります(①)③は、52ページの番号)。

①は、指示語をひとことで置きかえるパターンです。「帽子↓買ってくれた帽子↓妹が買ってくれた帽子↓去年、妹が買ってくれた帽子」というように、下から上へと言葉を積み上げるのが、指示語問題のコツです。

②は、抽象化して表現自体を変換するパターンです。このためには、ある程度の言葉の知識(語彙力)が必要です。

③は、接続関係をもとにして文の意味を抽象化するパターンです。ここでは、対比関係の「が」に注目しています。対比関係はいつも「違い」を表すためにあるので、必然的に「違い」となるわけです。

いずれも、「ひとことと言うと？」という問いかけが突破口になります。

●ポイント——抜き出し問題も指示語問題も、まず「ひとこと」で答えてみよ。